

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800295		
法人名	株式会社 みえ親孝行		
事業所名	グループホーム伊勢かわさき		
所在地	三重県伊勢市河崎3丁目9-14		
自己評価作成日	平成30年12月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoNoCd=2490800295-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 31 年 1 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月ボランティアの方にお祝いし、演奏会と誕生日会を行っている。 ・毎月イベント行事を行っている。 ・イベント、行事の時には写真を撮り、玄関に貼り出し、面会の方に見て頂いている。 ・見た目にも楽しんでいただけるように、色鮮やかでおいしい食事を提供している。 ・週に2～3回の入浴予定で、炭酸泉のヒノキ風呂を利用して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>伊勢市の中心部、市役所や小中高の学校が並ぶ住宅地の中に平成30年4月に開設されたまだ1年目の事業所であるが、支援の中心に“家族”というワードをはめ込み、利用者と職員、職員と利用者家族を一つの家族と見立てる関係作りを推し進めている。事業所としてのセールスポイントは先ずは施設全体の新しさであるが、これに加えて共用空間の余裕を持った広さと檜風呂など特にこだわった設備内装にある。次に食事へのこだわりであるが、プロの料理人を嘱託職員に迎えて三食は勿論のことおやつまで特製で手作りするなど味はもちろん健康にも充分留意したものとなっている。今後は事業所としての活動を通じて地域との付き合いを深め、地域の一員としての役割を果たすことを大きな目標としている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の全職員への共有は出来ていないが、施設の理念を基にケアの実践に努めている。	開設間もない事業所であり未だ理念としての明文化はされていない。しかし「利用者も職員もそして利用者家族も一つの家族のように」という思いを大切にしており、日々の支援に努力している。この先来年度をめどに正式に理念として制定していく予定である。	事業所理念は運営上の根幹を成すものであり、また日々の支援の指針となるものである。事業所、職員はもとより関係者全員でよく検討し利用者やその家族にも理解を得ながら早急に制定されるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミ拾いへの参加や、ご近所へのあいさつを心掛けている。又ボランティアの方に訪問をいただいている。	設立と同時に地域の自治会に加入し、ゴミ拾いなどの行事等に利用者と共に積極的に参加している。今後地域へのアピールの方法として事業所の各イベントに来てもらう声掛けをしたり、認知症についての出前講座などの呼び掛けをしている。	グループホームにとって地域との付き合いは欠かせないものであり、双方の行事などへの参加や運営推進会議を利用して交流を深めるなど地域の一員としての立場を築かれることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不安に思う事の相談や、具体的な支援方法の指導をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者に、施設の現状の報告だけでなく、意見交換や、話し合い等、交流の場所として利用している。	運営推進会議は概ね2カ月に1度、年6回を基本として開催されている。参加者は地域住民代表や協力医、行政に加え、利用者家族にも毎回通知し参加を促している。議題としては事業所としての課題などを取り上げ、これに対する様々な意見が出されて活発な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の研修や受講を通して、密に相談や協力等をしている。	市役所との連絡調整には車で10分程度の本庁に行っており、介護保険の切り替えや運用上の疑問点などの相談が主である。最近では利用者とその家族の過ごし方について良いアドバイスを貰った。また高齢者対応の部署には同じように相談に行ったり職員研修に来てもらったりと総体的に緊密な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を行う事で拘束にならないケアの実践を職員同士話し合い、行っている。現状、玄関の施錠があるが、安全管理上、入居者の生命の安全を優先し、やむを得ないと考えている。	開設と同時に身体拘束防止マニュアルを策定しており、今回の規制強化に基づいて見直しを行ったところである。職員研修はこのマニュアルのほか厚労省や市からの資料を基に管理者が指導し行っているが、何よりも利用者目線であることを第一にしてケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会を作り、防止に努めている。又、職員同士、声をかけ合い、虐待にならないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の実施はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心掛け、補足等の話、質問等に答え、理解して頂ける様に心掛けている。又、いつでも疑問に思ふ事を聞いていただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置し、ご意見等、いつでも話をさせていただけるようにしている。	家族意見は面会時や電話連絡などの機会を捉えて聞き取るようにしている。また運営推進会議において発言を促しており、意見や要望を聞く方策を整えている。ただ、開設間もないこともあり施設等は新しくまた運営にも特段の要望が出されたことはないが、今後も積極的な意見聴取の機会を設けていくこととしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニットの職員での会議を行い、意見や発言が出来る場を設けている。	月1度のユニット会議のほかケア会議や拘束廃止委員会など職員が集まり意見を出し合う機会は多く、職員も自分たちの役割をよく理解して真摯な意見出しが行われている。また利用者の要望や意見を職員が会議で提案しそれを実現させた例もあり、事業所としての聞き取る姿勢がよくうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作る為、普段から職員の意見を聞き、職場に反映する努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修を行い、ケアの向上を目指している他、施設外の研修には出来るだけ参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊勢市介護相談員派遣事業三者会議に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活に慣れて頂くまでは、職員が密に接し、今までの事、困っている事の話聞き、入居者同士のつなぎ役になる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容等、説明し理解して頂き、家族様の主老いも考慮したプランの作成など密に連絡を取り、関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の現状の状況を把握し、家族様がどうしたいのか気持ちを聞き、個々に合ったサービスや、ケアを行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの場として共に笑い喜び悲しみ怒り楽しむ、喜怒哀楽のある生活の場を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と家族様の絆を大切にしてもらう為に、面会時等は入居者様と家族様との空間を作る。又、レクや行事等には家族様も交えて楽しんでいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様等が面会に来て頂き易い様に、声掛けや、環境作りをしていく様、努めている。	利用者の殆どが伊勢市の出身者で、かわさき天王祭りや宮川の花火などは馴染みの行事でありよく話題として盛り上がる。日常的な関係継続の手段としては墓参りや地元の行事などへの参加であるが、家族の協力により支援出来ている。今後は事業所の近所の人達との関係を新しく作り出していく方向で考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を楽しまれたり、職員とレクに参加されたり良い関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、次の施設からの連絡や相談があり、支援に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がやりたい事を把握し、出来る限り希望に沿った生活が続けられる様に、支援を行っている。	現在、利用者の平均介護度は2弱で殆どの利用者と言葉での意思疎通が可能である。また個々の要望や思いは入居前の資料や聞き取りで把握しているものの日々発見することも多く、それらを情報として記録し職員全員で共有しこれからの支援に活かすべく努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活してきたリズムを壊さない様、介助や支援、声掛けを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来なくなる事が増える事で生活のリズムが崩れず、継続した生活が出来る様に、日々観察をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等、家族様との話し合いの場を設け、家族様の思いも取り入れたケアを行える様に、計画を作成している。	入居時の家族への聞き取りやアセスメントシート等に基づきケアマネージャー、医師、管理者などで初期計画を策定している。計画期間は6ヶ月を基本としているが、まだまだ変化の大きな利用者が多く日々のモニタリングに注意を払っている。家族には面会時などに説明し理解を得ることとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録へ記入し、職員間で情報の共有が出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	枠にとらわれず、個々の状況に応じて支援や介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の出来る事を把握し、安全でより良い暮らしを支援し、最大限に活かせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の実施を行うと共に、急変時には往診医へのオンコール対応で入居者様に支援出来る様にしている。	協力医は外科と内科の2医院をもっており、それぞれ専門に基づいて対応してもらっている。特に内科では月2回の訪問診療に加え、通常の診療時間外も様子を見に来てもらうなど医療的な充足がうかがえる。また緊急時は本社の訪問看護ステーションから看護師が駆け付ける体制を取っており利用者の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護間での送りやり、報連相を行い適切な受診や処置が受けられるように支援している。又同事業所の看護師と24時間連絡が取れ、医療面での相談や指示を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携のケースワーカー、病院の退院看護師との情報交換がスムーズに出来る様に関係作りをして行く必要がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの研修は行ったが、全職員に周知出来ていない。	看取りは医療行為がないことを前提に受け入れていく方針である。その為のマニュアルも整備され、年1回ではあるが本社からの研修も行われている。実際の看取りになれば臨時のチームを編成することなどを検討しており、体制作りにも取り組んでいる。また家族には入居の際に説明し、状態の変化には改めて検討することで了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置はあるが、研修等を実施していない。緊急時の対応は全職員が周知出来る様にマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っているが、災害時の対応の研修等の実施はない。	最も危惧されるのが宮川の氾濫であり、一昨年の災害状況を見て宅地の地盤と基礎を上げて建物を建設した。避難訓練は年2回、うち1回は夜間想定で行っている。また運営推進会議に併せて行うこととしており、民生委員らにも積極的に参加してもらっている。その他、地震等での孤立に備え食品の備蓄やヘルメット、懐中電灯などを常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊重とプライバシーの確保、声のかけ方、年長者への対応の仕方に考慮し、対応している。	利用者への呼び掛けは入居前と変わらない様に苗字であったり下の名であったり違和感のない形を心掛けている。職員には入社の際に個人情報やプライバシー保護の研修を行っているが、基本的にはあたり前のことをあたり前に、利用者本位に支援できるよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや主張がある際、話を聞き対応している。自己決定が出来る様に職員本位の行動にならない様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースで過したい様に過ごして頂ける様に声掛けや支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々それぞれに思いがあり、身だしなみやおしゃれに気を使われる方には特に配慮し、介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き等は手伝って頂いているが、食事の準備や片付けは一緒に行っていない。	食事はプロの料理人を嘱託職員として迎え三食ともこだわりの手作りをしている。また食器類も画一的なものは避けて食事同様こだわりを以て提供しており、静かなBGMが流れる食事風景は穏やかで食事を楽しむ様子が見て取れる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等、個々に合わせて提供している。又水分についても職員が勧める事で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々それぞれに毎食後本人様の力に応じて口腔ケアをして頂いている。介助の必要な方については職員が支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導、声掛け、自分で行かれる方であっても、付き添いや見守り、パット交換の介助を行っている。	利用者全員がトイレで排泄することを目標としており、尿意、便意を汲み取って根気よく誘導することによりトイレでの排泄が習慣付けられた事例もある。また便通においても総じて順調で薬を使わずに食材や献立、体操などを習慣付けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夕食時の味噌汁に食物繊維の豊富な寒天を入れる等、便秘予防に工夫している。又、適度な運動を行う為、レクに参加して頂き、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっている。入浴拒否等がある場合は全身清拭等に切り替えるなど、対応している。長風呂等、個々の希望に沿い、入浴を楽しめるように対応している。	入浴は週3回で午前、午後に分けて実施しているが、汚染などの状況により柔軟に対応している。ユニットごとの個浴で全体の面積は広く、更に湯船の総檜造りと人工的に沸かす炭酸泉は利用者大変喜ばれている。通常入浴支援は職員一人で行っており、うちけた中に会話も弾み楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意思を尊重し、状況に応じて居室にて休息して頂いている。又、夜間は安眠出来る様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様全員の服薬している全ての薬への把握は出来ていないが、服薬の支援の方法は全職員が周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い暖かい日には、施設周辺の散歩に出かけたりしている。ご家族様の支援で定期的に外出し、買い物や外泊を楽しまれている入居者様もいる。職員はスムーズに外出出来る様に準備を支援している。	日常的な外出は外気浴を兼ねた近所への散歩であるが、今年度はウッドデッキ調の中庭にプランターを設置して野菜などを作るよう計画中である。利用者の外出希望は墓参や買い物、外食、ドライブなどであるが、これらすべてにおいて家族が対応しており事業所はそれを支援する形になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内において金銭の持ち込みはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかって来た時は入居者様に取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やフロアには季節の飾りを設置し、季節を感じて頂ける様にしているが、玄関の扉を開けると、出入りを確認出来る様に、大きな音が鳴るようになっている。	施設全体が新しく白を基調に木質で統一されており、特に廊下、居間などの共用空間は広く配置され開放感がある。居室から廊下を経て居間に至る動線もよく考えられており、更にユニットの中間に中庭として配置されたウッドデッキは使い勝手が良く、今後の利用を工夫しているところである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは皆さんが集える場所を提供している。フロアの片隅には皆様の目を気にせず、落ち着いて座れる長椅子を用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使い慣れた物を持って来て頂き、居心地の良い空間で生活して頂いている。	共用空間と同じように木質を基本とした造りは温か味があり落ち着いた居室となっている。ここに使い慣れた家具や調度品を運び込み入居前と変わらない生活を楽しんでいる。掃除は専門の職員が毎日行っており特に清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考えながらも、入居者様がやりたい事、出来る事は見守りや声掛けでして頂いている。		